

JAみねのぶ 香りの畦みちハーブ米（特裁部門）

1



香りの畦みちハーブ米生産部会

香りの畦みちハーブ米とは？

水田の畦畔にハーブを栽植し、カメムシの発生源であるイネ科雑草を抑制



農薬の使用量を北海道が策定した化学合成農薬の成分使用回数22回に対し、1/2以下



「香りの畦みちハーブ米」

安全・安心な農産物の供給と、環境保全型農業の実践に取り組んでいます。

香りの畦みちハーブ米のはじまり①

3

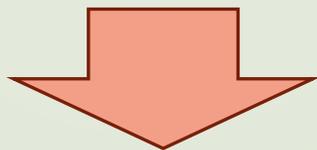
ハーブ米先駆者：今橋 道夫さん

平成元年 元氣招会 結成

無農薬・減農薬栽培を実施

無農薬栽培・減農薬栽培を維持するためには健苗作りなど病害虫対策を徹底していたが、カメムシの被害は避けられなかった。

父母が観賞用に植えていたハーブを洋子さんが、土手と水田近くの畦際に移していたが、その生き残りのミント種を道夫さんが畦に植えた。



畦に植えたハーブの影響でカメムシ生息源であるイネ科雑草が減るとともに防虫効果が期待され、景観も良好となった。

平成7年から本格的に畦にハーブを植え始めた

香りの畦みちハーブ米のはじまり②

4

平成8年 クリーン農業推進協議会 発足

平成11年 農協の事業計画としてハーブの畦作りを採用
10万本、総延長100kmにも及ぶ

「香りの畦みち」を造成

平成13年 香りの畦みちハーブ米 出荷開始

平成14年 商標登録

平成15年 今橋道夫・洋子さん夫妻 日本農業大賞受賞

平成16年 香りの畦みちハーブ米生産部会 発足

平成16年 YES!clean生産集団登録

カメムシへの対策！

6



北海道各地の水田地帯では、収穫した玄米に黒い斑点の食害を残す、アカヒゲホソミドリカスミカメ（カメムシ）の被害に苦慮しておりました。玄米についた黒い斑点は、精米しただけでは取り除くことができないため、落等の原因となっておりました。



ハーブにより

イネ科雑草を抑制し、発生源を排除！！

ハーブの種類



アップルミント
(シソ科・多年生)



スペアミント
(シソ科・多年生)



キャットミント
(シソ科・多年生)



ブラックペパーミント
(シソ科・多年生)

ハーブ苗は、土壌にあわせアップルミント、スペアミント、キャットミント、ブラックペッパーミントが主要品種となっており、当初は業者からの納品で取り進めましたが、関係機関の協力とご指導を頂き、平成13年に地元生産者で組織された「みねのぶハーブ会」の生産者が、組合員に対し苗の供給を行っています。現在は、アップルミントが大半を占めています。

ハーブ栽培の普及



カメムシへのハーブの効果は確認されましたが、実際の普及については栽培経費や、実際に栽培した場合の農薬の統一基準によるカメムシに対する効果、特に品質における落等への不安もあり難しい問題でありました。しかし、「売れる米づくり」としての「香りの畦みちハーブ米」による峰延ブランド確立の重要性に対する理解が深まり生産者や青年部事業の取り組み等により徐々に栽植を伸ばしました。

「香りの畦みちハーブ米」の商標登録

- ▶ 当地域においての基幹作物は米であり、「売れる米づくり」を実践するために、消費者ニーズに応えるため、環境に優しい米づくりを進めて参りました。環境保全型農業を目指し畦畔にハーブを植栽し、農薬の使用を減らす事により、安心・安全な米づくりの実践をして参りました。そこで、「香りの畦みちハーブ米」の商標登録を申請し、平成14年3月22日に登録されました。
- ▶ 峰延ブランドの確立へ向け、特色ある米づくり、産地づくりを進めています。



商標登録番号4553243号

YES!clean[®] 生産集団登録

平成16年に北海道クリーン農業推進協議会により認証されるYES!clean[®]生産集団登録を行い、YES!cleanとしての「香りの畦みちハーブ米」が平成17年より出荷されています。

YES!clean 生産集団登録証

峰延農業協同組合香りの畦みち
ハーブ米生産部会 殿

「北のクリーン農産物表示制度」要領第8条3項に
基づき、標記生産集団に登録したことを証する。

登録年月日	平成16年12月22日
登録番号	第181-01-11号
対象作物	水稲
作型	肥料 高収地帯・低地土(乾) 農薬 うるち(移植)



平成20年2月20日

北海道クリーン農業推進協議会

会長 飛田 稔



「香りの畦みちハーブ米（特裁部門）」生産要領

ハーブにより圃場が囲まれていること

予察の励行（ハーブ畦畔・慣行畦畔）

対象品種「ななつぼし」

粒選別機の網目は1.9mm

玄米水分14.5%～15.0%

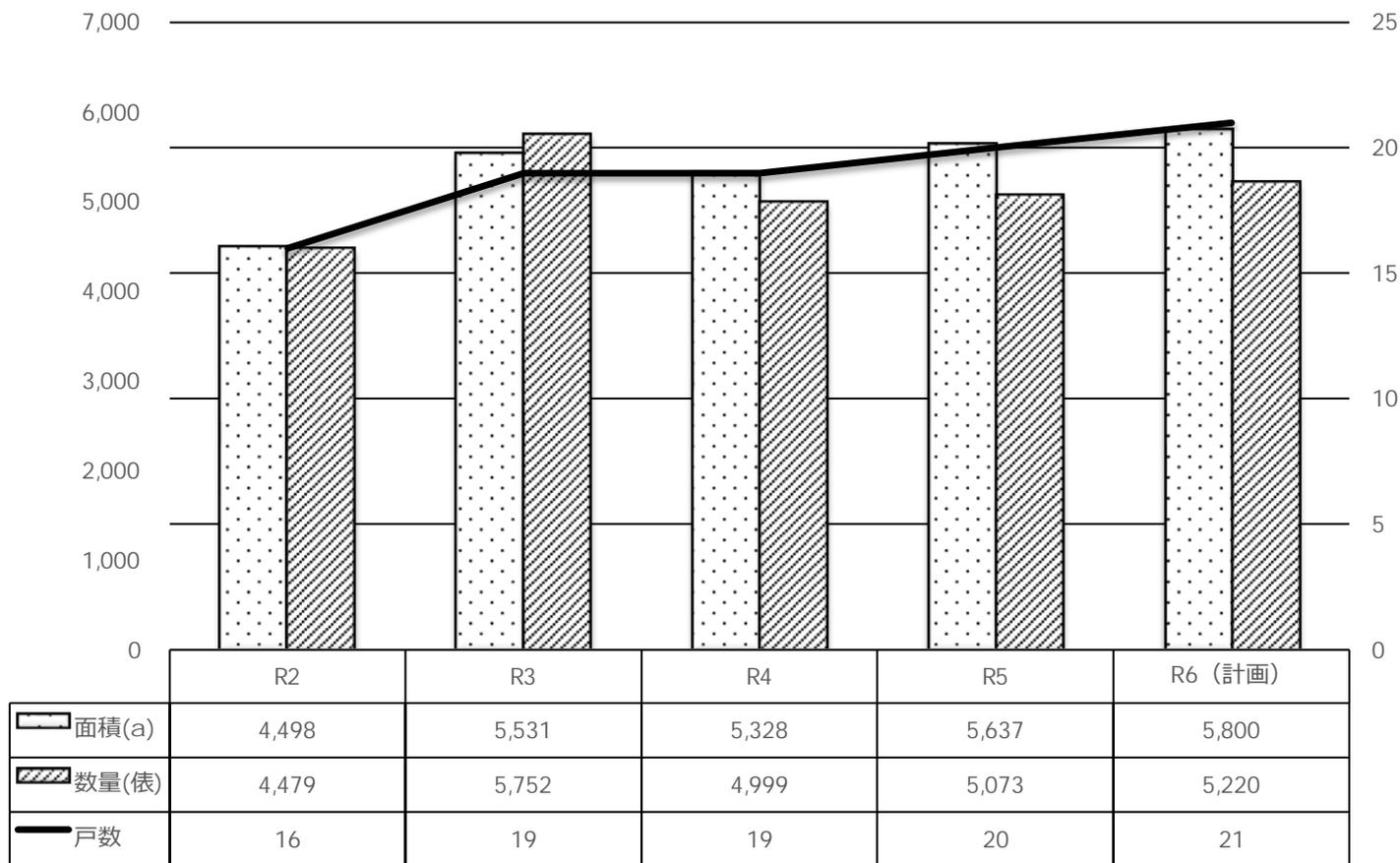
化学農薬の厳守『化学合成農薬成分カウント11回以内（慣行使用の1/2以下）』

化学肥料の厳守『化学肥料窒素成分5kg/10a以内（慣行使用の1/2以下）』

障害（生育過剰、生育遅延、不稔、倒伏、病害虫など）の発生した稲は除外

今後について

ハーブ米面積・俵数・戸数推移



PR資料

「香りの畦みちハーブ米」の品種は「ななつぼし」です。

農薬の使用回数を半分以下に減らし、障害が発生した稲は除外するなど、様々な栽培条件をクリアしたお米で作られています。

未来を担うお子様たちに「安全・安心」なお米を食べてもらい、健康的で元気に成長して欲しいという願いも込めて、部会の生産者一同、取り組んで参ります。

みねのぶ

孫にも食べさせたい

香りの畦みちハーブ米

安全・安心。
農薬使用量
1/2以下

ハーブ米とは...

水田の畦畔にハーブを栽植し、カメムシの発生源であるイネ科雑草を抑制し、農薬の使用量を、北海道が策定した化学合成農薬の成分使用回数2.2回に対し、1/2以下に減らしたお米が「香りの畦みちハーブ米」です。

日本農業新聞（令和2年7月15日）

2021年7月15日(木) 日本農業新聞 ワイド2北海道 12ページ

ハーブで害虫予防▶

空知管内J.Aみねのぶの「香りの詰みちハーブ米生産部会」は、ハーブを害虫予防に使い、農薬の使用を減らして栽培する技術を開発した。「香りの詰みちハーブ米」として販売し、減農薬米として定評がある。部会一丸となり、ハーブが畦畔（けいはん）を覆い、雑草を抑制させるまで管理を徹底する。

同部会は2001年に設立。畦畔にハーブを栽培し、その旺盛な繁殖力を利用して、害虫となるカメムシのアカヒゲホソミドリカスミカメがすみかとするイネ科雑草の発生を抑える方法で、減農薬の米栽培を進める。

使用するハーブは8種類、いずれかを選択し栽培するが、農家の拘り気が繁殖力が最も高い「アップルミント」を栽培している。

ハーブが畦畔全体を覆うように成長するまでは、約5年間を要する。それまで

の間、ハーブの隙間部分に生える雑草の除草管理が重要な作業。雑草の生える隙間の草刈りにハーブが生えそるえば、雑草の発生を抑えてくれる。

その後は、シーズン中に3回ほどの草刈りが必要となる。特に「アップルミント」は、1センチ程度まで丈が伸びるため管理作業の邪魔にならないよう、50センチ程度になったら月に1回程度の草刈りを行う。この「アップルミント」は、茎が太く、根刈りのため、長めに穴を開けることもあるので注意

減農薬の米 J.Aみねのぶ生産部会



が必要だという。

同生産部会では、「YE S! clean」の講習も取得している。ハーブ栽培を応用することで、農薬の成分使用回数を慣行の2回から8～10回と半分以下に減らし、部会で決定する有機資材や肥料を使うことで品種「なつばし」の減農薬栽培を行っている。

同生産部会の中村兵仁部会長（48）は「タンパク値の関わりもあり地帯を選ばず必要はあるが、地域の地産として作付けを守り、規模拡

大に向け頑張りたい」と展望。「安全で体に負担の少ないお米に仕上げている。ぜひ、味わっていただきたい」と強調する。

同生産部会は、本年度35戸の会員を持つ55畝の栽培面積で取り組んでいる。「香りの詰みちハーブ米」は、J.Aみねのぶの生活広場とコープさっぽろ、近郊のジェイアール生鮮市場で取り扱っている。